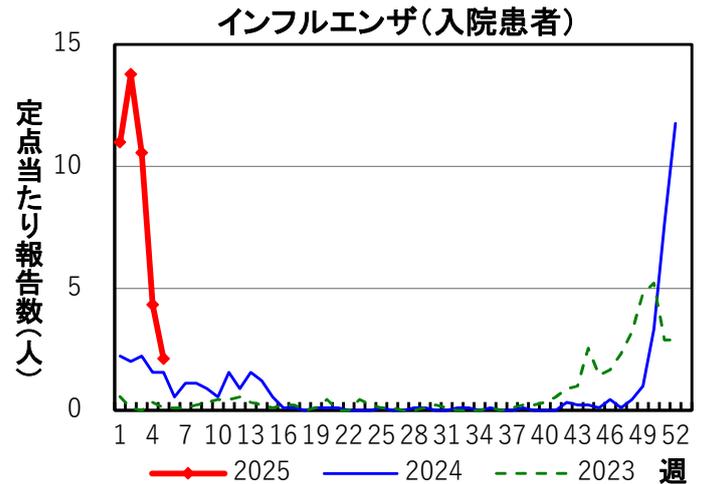
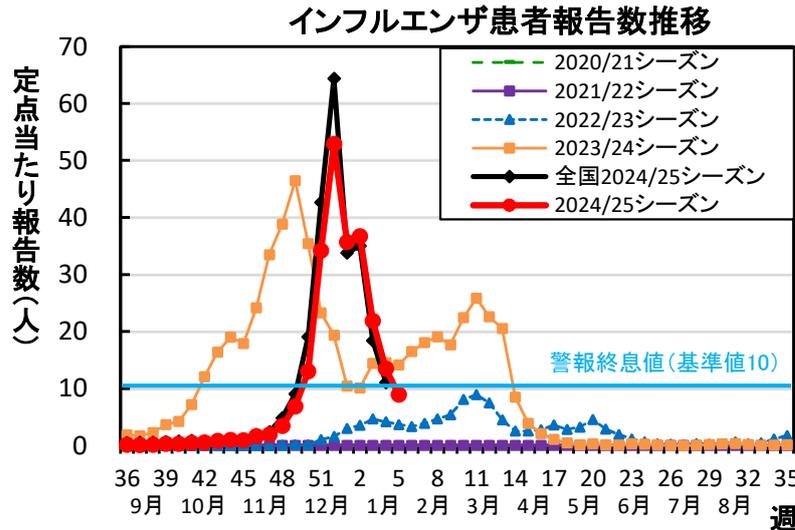


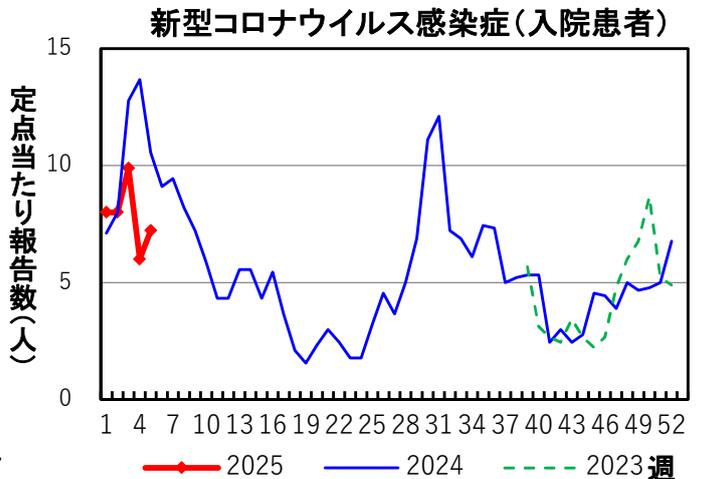
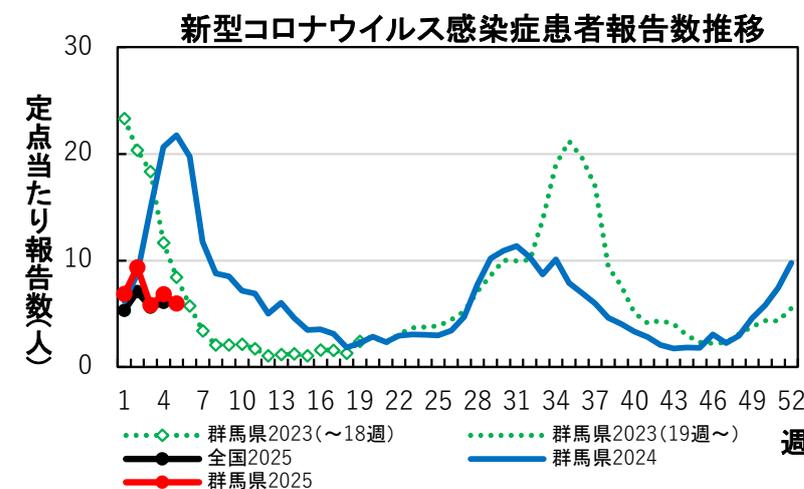
● インフルエンザ (定点報告疾患)

- ◆ 2025年第5週 (1月27日~2月2日) の定点からの報告数は761人 (定点当たり8.95人) で、警報解除となりました。
【第4週 (1月20日~1月26日) : 1,143人 (定点当たり13.45人)】
- ◆ 2025年第5週の基幹定点からの報告数は19人 (定点当たり2.11人) でした。
【第4週 : 39人 (定点当たり4.33人)】
- ◆ 定点医療機関の迅速検査結果は、A型が多くを占めています。



● 新型コロナウイルス感染症 (定点報告疾患)

- ◆ 2025年第5週の定点からの報告数は507人 (定点当たり5.96人) でした。
【第4週 : 581人 (定点当たり6.84人)】
- ◆ 年齢群別では、10歳未満が110人 (21.7%) と最も多く、次いで10歳代が81人 (16.0%) でした。
- ◆ 2025年第5週の基幹定点からの入院患者報告数は65人 (定点当たり7.22人) でした。
【第4週 : 54人 (定点当たり6.00人)】



※2023年第1週から第18週までは厚生労働省が発表した
定点医療機関合計報告数と定点当たり報告数
(令和4年10月3日~令和5年5月7日の週次データ) から作図

●新型コロナウイルス SARS-CoV-2 ゲノム解析について (Vol.58)

新型コロナウイルスゲノム解析結果(2025年第3週(1月13日~19日)まで)

県内では、オミクロン株が2021年第50週(12月13日~19日)に初めて検出され、2022年第1週(1月3日~9日)以降、BA.1が主な流行となりました。

2022年第2週(1月10日~16日)に渡航歴のある患者からBA.2も検出されましたが、その後の拡大はみられていませんでした。第9週(2月28日~3月6日)以降、BA.2の検出が増加し、主な流行となりました。第25週(6月20日~26日)以降、新たにBA.5が主流となりました。

2023年15週(4月10日から16日)以降は、XBBが目立って検出されるようになり、主流となっていると考えられます。

2024年は、JN.1(BA.2.86系統)や、その子孫株の1つであるKP.3が検出されています。

2025年は、BA.2.86系統やその他(XEC等)が検出されています。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更となりましたが、引き続き医療機関での検体収集の協力により、ゲノム解析による流行株の把握が重要と思われます。



(デルタ) ※ (オミクロン) ※

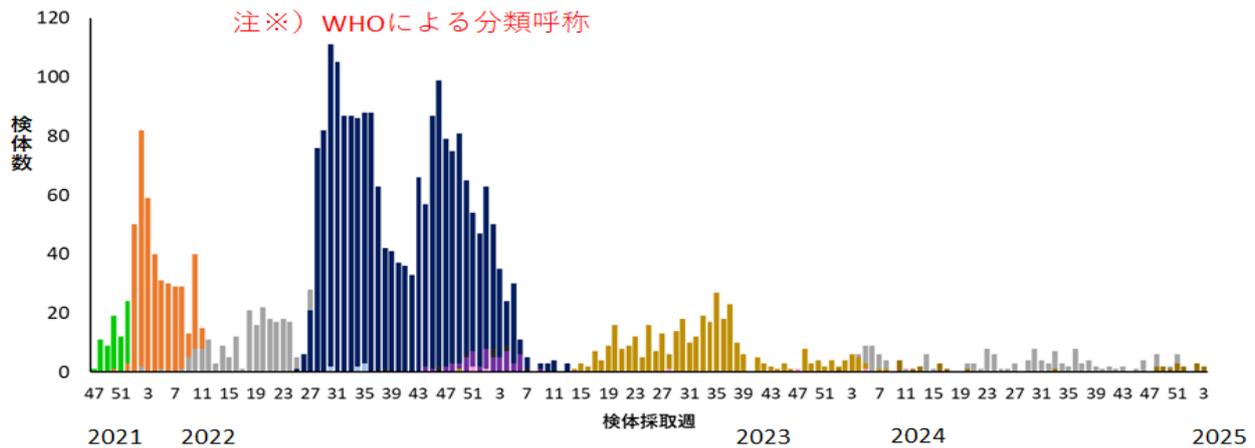


図1 新型コロナウイルス分子系統の時系列解析(検体数)【群馬県衛生環境研究所実施分】

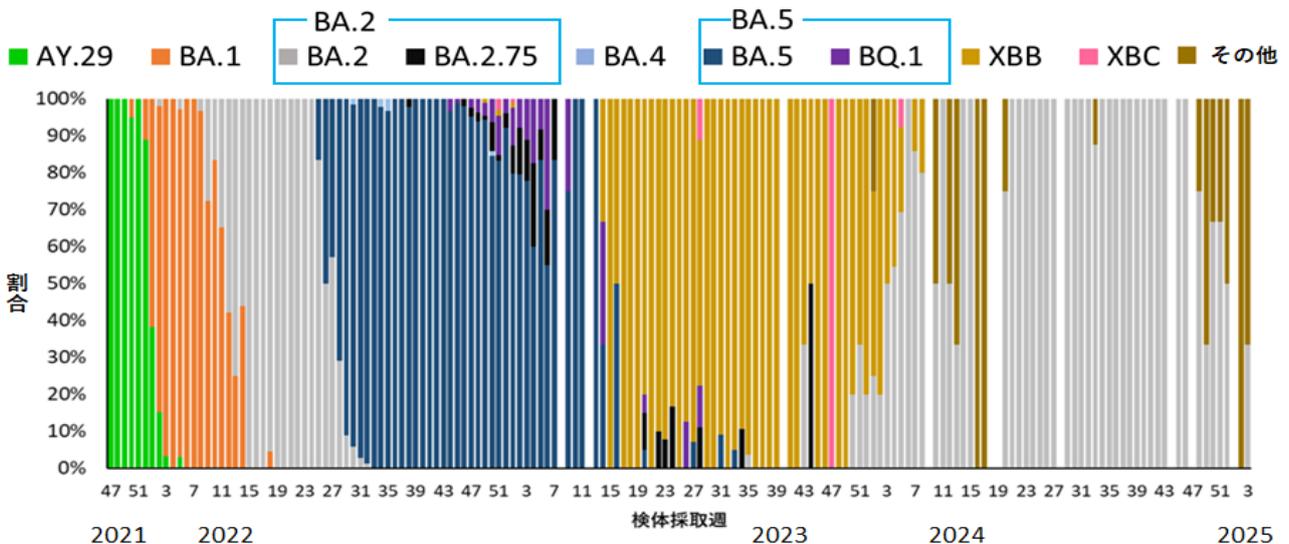


図2 新型コロナウイルス分子系統の時系列解析(割合%)【群馬県衛生環境研究所実施分】